

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4091600199		
法人名	有限会社 グットライフ		
事業所名	グループホーム あおきの里		
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市城島町上青木 262番地 (電話) 0942-62-5375		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル		
訪問調査日	平成21年4月22日	評価確定日	平成21年6月16日

【情報提供票より】(21年4月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 14.4 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨準耐火 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道・光熱費8000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要(4月16日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	9 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	73 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富田病院	とみやす歯科
---------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

筑後平野の緑豊かな田園地帯の中に位置している、グループホーム「あおきの里」は、地域の高齢者の方々が安心して快適に暮らせる場所となるよう、安価な料金設定で運営されており、入居者本位の日々の暮らしを支えている。職員教育の一環として7種類の委員会(感染対策・給食・環境美化等)を作り、全職員に役割を担ってもらうことで、サービスの質の向上に繋がるように取り組んでいる。今後さらに地域との連携体制を育み、また社会資源の開拓・有効活用へ向けて取り組もうとしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果をミーティング等で検討し、アセスメントツールの一部変更・追加等を職員全員にて改善に向けて取り組み、サービスの質の向上に繋げている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を日々のケアの確認・見直しの機会として捉えており、研修として位置づけられている。職員全員での自己評価作成に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、入居者・家族・区長・民生委員・公民館長・市職員・介護相談員等の参加により開催されている。地域の理解と協力を得るための機会となっており、会議での助言を得て、入居者・職員の地域との交流につながっている。外部評価への取り組み状況の説明や、行事報告等が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	重要事項説明書に苦情相談窓口や苦情対応機関を明記し、入居時に説明を行っている。また介護相談員の来訪日を掲示し、家族への案内を行っている。意見のいいやすい関係づくりに努めており、直接意見や要望を伝えられることも多い。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームで暮らしている犬との触れ合いを通して、地域の方々との挨拶や会話が弾むようになった。また地域の方々から花や野菜が届けられ、お茶を一緒に楽しむ場合もあり、馴染みの関係ができつつある。地域行事(缶拾い・ウォーキング・お祭り等)にも積極的に参加し、小学校の運動会へは案内状とお餅が子供達によって届けられ、入居者の笑顔につながっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「福祉・人権・環境・平和・教育は皆平等の精神で地域社会に貢献できる介護施設をめざします。」という理念を創り、入居者本位の支援を、地域の方々が安心して利用できるように、できるだけ低料金で提供し、理念に基づいた支援を行っている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り・ミーティング時に必ず唱和し、代表者が理念に触れ、確認し合うようにしている。日々の暮らしの中で、理念を常に意識した言動・姿勢で入居者と接することに努め、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域での行事・活動(缶拾い・ウォーキング・お祭りなど)に積極的に参加し交流に努めている。また近隣の小学校から運動会等の案内状が届き、席も設けられている。近隣住民の方々から野菜や花などが届けられ、入居者とともにお茶を楽しむ機会もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は外部評価の意義を理解している。職員全員で運営していくホームであるという意識の中、意見を積極的に出し合っている。また評価結果も全職員で検討し、改善に向けて取り組みたいと考えている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者・家族・区長・民生委員・公民館長・市職員・介護相談員等の参加により開催されている。地域の理解と協力を得るための機会となっており、会議での助言を得て、入居者・職員の地域との交流につながっている。外部評価への取り組み状況の説明や、行事報告等が行われている。		

グループホーム あおきの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	久留米市内のグループホームや小規模多機能事業者対象に、2ヶ月に1度包括支援センターで研修会が行われている。積極的な参加を行い、行政との交流や連携につながる機会となっている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現在、制度を活用している入居者がおり、月に1度の支援員の訪問を研修の機会としても捉えている。関係機関との連携、また外部研修への参加や内部研修を継続的に行い理解を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行し、個別に日々の暮らしの様子や健康状態などを、手紙や写真にて報告している。金銭管理についても毎月1回、出納帳のコピーを確認してもらっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口や苦情対応機関を明記し、入居時に説明を行っている。また介護相談員の来訪日を掲示し、家族への案内を行っている。意見のいいやすい関係づくりに努めており、直接意見や要望を伝えられることも多い。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員の馴染みの関係づくりを重視し、固定勤務やストレスケアにより、異動や離職を最小限に抑えるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用に関して、年齢・性別・資格・経験を基準としていない。人柄や高齢者に対する気持ち、思いを重要視している。資格取得へ向けた環境作り等の支援を行い、また個々の職員の特技や能力(踊り・絵手紙・植栽・調理等)を活かせる場面を設けている。		

グループホーム あおきの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	理念には人権尊重への思いも込められており、理念の理解・共有が人権教育・啓発活動にも繋がっている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	ミーティングや勉強会等の内部研修を行い、経験や能力に応じた外部研修への参加、また資格取得への支援を行っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	包括圏域の勉強会に参加し、交流や情報交換を行っている。他の事業所との交流が、日々のケアの見直しや、振り返りにも繋がっている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人・家族の希望や状況により、訪問や見学、体験サービス等を通じて徐々に馴染みの関係を築き、安心して納得してサービスを利用できるように、支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	地域に伝わる伝統文化や行事、料理の仕方など、年長者である入居者から学ぶ場面は数多くある。日々の暮らしの中で励ましてもらうこともあり、共感できる時間を大切にしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム あおきの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の入居者の方々との会話の中で、要望や思いを把握し、また表情や行動からも真意を汲み取るように努めている。ミーティング等で話し合いを行い、職員の「気づき」や家族からの情報をアセスメントへ追加し、職員間の共有に努めている。		今後は、センター方式等の活用により、アセスメント様式をさらに充実させ、介護計画に反映させていきたいと考えている。
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや要望を大切に、ユニット毎にカンファレンスを行いながら、介護計画に反映させるように取り組んでいる。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に、また状況に変化があった場合に本人・家族・職員・主治医の意見を参考にした介護計画の見直しが行われている。目標・具体的な支援・達成状況等、モニタリングも3ヶ月毎に実施されており、改善課題の把握と職員間の共有のしやすい工夫がなされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が付き添えない場合の通院同行や、特別な買い物等、入居者・家族の要望に沿えるよう、柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族と相談し、かかりつけ医を決めている。受診方法も家族や入居者の希望に応じるようにしている。家族対応で受診する場合は情報提供を行い、適切な医療が継続的に受けられるよう支援している。		

グループホーム あおきの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	家族・関係者と話し合いを重ね、急変時の対応等の方針を共有している。今後も、ターミナルケアについての職員の理解を深め、本人・家族の安心に繋がるように努めていきたいと考えている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
化					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	ミーティングや日々のケアの中で、入居者一人ひとりの尊厳を損なわない言葉かけや対応について話している。また、個人ファイルや記録等は事務室で管理し、取り扱いに配慮している。		今後も入居者に対する接遇や個人情報を含めたプライバシーに関する研修を継続的に行いたいと考えている。
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的な一日の流れはあるが、入居者の希望や体調に応じて、柔軟に支援することに努めている。入居者一人ひとりのペースで行うことを基本としている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事に関しては、台拭き・茶碗拭き・野菜の皮むき・根切り等、個々の能力に応じて職員と共に行っている。入居者の嗜好を踏まえた献立を作成し、職員もさりげない見守りを行いながら同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう配慮している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的には、一日おきに個浴での入浴支援が行われている。気温や体調、状況に応じて、毎日の支援を行う等、柔軟な対応が行われている。仲の良い入居者同士で入浴を楽しむこともある。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム あおきの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの楽しみごとや特技(大正琴・将棋・食材の下ごしらえ・花作りや野菜作り等)を、職員と一緒に楽しむようにしている。また、近所に居る友人に誘われてお茶を楽しまれることもある。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の体調に合わせ、積極的に戸外へ誘うようにしている。病院受診の帰りに公園まで足をのばし、散歩することもある。散歩を好まない入居者には、庭先に誘って季節を感じて貰うようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛ける弊害を充分理解している。玄関の鍵は日中開錠している。居室について、入居者自身が鍵を希望する場合は、不安解消のためにも個別に柔軟に対応している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、地域の消防訓練に入居者とともに参加している。区長を通して火災・地震等の災害時の、地域の協力を働きかけている。今後はさらに運営推進会議を通じて、協力体制づくりを呼びかける予定としている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に合わせた支援をしている	献立作成・調理共に全職員で行っている。以前調理関係に従事していた職員のアドバイスの下、職員がアイデアを出し合い、旬の食材を取り入れたバランスの良い食事の提供に努めている。食事量・水分摂取量、また定期的に測定される体重が記録され、健康管理に活かされている。		

グループホーム あおきの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
32	83	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、季節の草花や装飾品、貼り絵・写真等が飾られている。東向きの開放的な窓ガラスと、十分な広さを持つ共用空間は、入居者にとっての居心地の良い場所となっており、穏やかな時間を過ごしている。		
		居心地よく過ごせる居室の配慮			
33	85	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の好みや馴染みのある物(写真・筆筒・仏壇・ペット・カーテン・日用品等)が生活スタイルによって持ち込まれ、その人らしい居室となっている。また、衣替えは家族や職員と共に行い、入居者が安心して過ごせる空間となっている。		